

令和6年元旦、石川県能登半島を震央とした地震が起きた。最大規模の地震は同日16時10分に発生したマグニチュード7.6、震源の深さは16km。ちょうど実家で母がつけていたNHKでアナウンサーによる鬼気迫る避難勧告を耳にして驚いた。翌日には羽田空港の飛行機事故のニュース。新興感染症からやっと日常が戻ってきたところでの、衝撃的な年明けとなった。現在、沖縄県医師会からもDMAT部隊が被災地に赴き可能な限りの支援を行っている。

二月号の表紙は堀川恭平先生撮影の夜空で真っ赤に咲き誇る今帰仁城跡の寒緋桜の写真。花言葉は“あでやかな美人”“気まぐれ”“あなたに微笑む”などあるようです。今年の運気を占うかのような妖艶な写真に心を奪われました。

さて、今月号の内容ですが報告も多く盛り沢山となっております。最初は、令和5年度女性医師の勤務環境整備に関する病院長等との懇談会並びに勤務医部会講演会合同開催についての報告。医師の時間外労働の助言が適応される今年4月に向けて「宿日直許可取得に向けた課題」「診療と自己研鑽を区別した働き方」をテーマにグループディスカッションをされ、活発な意見交換により具体的な現場の声が聴け、有意義な講演会になったようです。

続いての二つは私の担当箇所です。沖縄県医師会県民公開講座が4年ぶりに県医師会館で開催されました。県医師会が推進している、働き盛り世代の健康改善を推進するため、テーマを“長寿奪還！みんなで考えよう働き盛りの健康づくり！”と掲げ、4人のシンポジストによりそれぞれの立場から話していただきました。抄録にあるように非常に分かりやすい内容であり是非ご一読ください。

次に永年勤続医療従事者表彰式ですが、今年度は50年の節目なる表彰式でした。昨年は3年ぶりに表彰式のみ、今年度は4年ぶりに懇親会も開催され、安里会長の祝辞及び受賞者の謝辞に玉城議長の労いの言葉もより一層心に沁みる表彰式となりました。

いぜん88トリアスロン医療救護に関して、小さな離島での救護活動の課題や対策についてなど出口先生より詳細に報告頂きました。今後も地域イベントに医師会が積極的に取り組むことにより、県民市民へ医師会が浸透する機会として重要だと感じました。

第54回全国学校保健・学校医大会について白井先生より報告されています。我が国ではトラウマを

抱えている児童生徒が60%ということや淡路島の寛容なサルの話など個人的にもっと聞きたいと思いました。

次に長崎県で行われた、九州医師会連合会第412回常任委員会・第126回臨時委員会総会・第123回九州各県医師会役員合同協議会・第123回九州医師会連合会総会の報告が続きます。やはり喫緊の課題である目前に迫った診療報酬を含むトリプル改定についての話を中心だったようです。

佐賀県で行われた日本医師会女性医師支援・ドクターバンク連携九州ブロック会議の報告では、様々なライフイベントの影響を受けやすい女性医師にとっての働き方改革について、各県医師会の取り組みや医師バンクの現状などの報告及び意見交換をされています。若い世代では女性医師の数が40%近くになっており、目先の支援だけではなく、教育や働き方、経済面など多方面で考えていく必要があることを再認識いたしました。

令和5年度は3人の叙勲がありました。宜野座治男先生：日本医師会最高優功賞・瑞宝双光章、嘉手刈勤先生：旭日双光章、小渡敬先生：瑞宝小綬章。先生方のご業績紹介や謝辞について報告されています。これからも御指導よろしく願いいたします。

生涯教育コーナーは、おもしろまちメディカルセンター循環器内科の井上卓先生より高齢心不全患者における至適血圧レベルについて紹介されています。高齢者高血圧管理においてフレイルを考慮することが重要であると学ばせていただきました。

今月のインタビューコーナーは琉球大学医学研究科救急医学講座の梅村武寛教授です。沖縄県の救急医療の現状や学問や研究する大学講座としての在り方、沖縄県医師会についての評価、教授の趣味にまで出口先生が切り込んでインタビューされています。

最後は知念正雄先生による随筆です。沖縄と米沢藩の関係を知りふらっと旅に出かけられた道中について想像を膨らませながら楽しく読ませていただきました。

今回初めて編集後記を担当しましたが、今月号は特に記事が多すぎて、纏め切れず言葉足らなくなってしまいましたが、著者の皆さんに心から感謝申し上げます。

広報委員 稲富 仁